



昨年度の1日平均収容人数は24人。担当教官との信頼関係づくりを軸に、親子合宿、生活意見発表会などのさまざまな更生プログラムが施されています。



宮城地区は穂高有明の古厩区ふるまやの西に位置する140戸ほどの集落。地域内には有明山神社や老人保健センターなどもあります。高原寮の運動場は寮が発足して間もなく造成。累積する岩石を取り除く作業に、近隣住民もモッコを担いで手伝ったといわれています。

フ エンスも鉄格子もない少年院が、穂高有明の宮城地区みやしろにあります。施設の名前は有明高原寮。短期間での更生が期待できる少年たちが、半年間ほど収容され、自己の問題を解決するための日々を送っています。塀やフェンスに囲まれていない少年院は国内唯一。そのことが象徴しているように、地域住民との盛んな交流が、戦後間も

ない発足時から受け継がれています。9月6日、有明高原寮と地元みやしろの宮城公民館が毎年合同で開催している「鐘の鳴る丘大運動会」が、施設内の運動場で開かれました。「地域の人がわんさどやって来て、最初、少年たちは疑いませす。『あれは見せかけだろうか。本気だろうか』と。少年たちの

人を見る目は鋭いですよ。そして、それがごく自然体に行われていることをすぐ見抜きます。地域の皆さんは、誠にさりげなく、普段の地域の行事としてとらえている」。そう話す大平義郎さんおおひらよしお(74・穂高有明)は、宮城地区の住民の一人として、過去には有明高原寮長として、地域と少年たちの関係を見つめ続けています。

意外な反応 大平さんが有明高原寮長に就任したのは今から17年前。当時の高原寮では、収容棟や体育館など新しい施設の建設が計画されていました。大平さんは着任してすぐ、宮城地区の総会で、建設事業の説明を住民に行うことになりました。

# フエンスのない少年院

ロング・レポート



## 有明高原寮

昭和24年に発足した穂高有明の宮城地区にある男子少年院。比較的短期間で更生する可能性が高い14歳～19歳までの少年が対象となる「短期処遇」の施設。松竹映画「鐘の鳴る丘」のモデルとしても知られています。



地元の中학생と一緒に選手宣誓をする高原寮の少年(写真左下)

特集 ふれあいのあした 地域、家庭、子どもたち